平成３０年第１１回定例会会議録要旨

◆開催日時　　平成３０年１１月２９日（木）　　午後２時００分開会

◆開催場所　　国富町農村環境改善センター　Ｃ会議室

◆出席委員　　豊田畩光　　木下正明　　二上由美　　海老原千浩　　山本憲一

◆欠席委員　　なし

◆出席職員（事務局）　　大矢雄二　　松岡徳　　中島達晃　　日髙健一郎　　中武瞳

◆会議録署名委員　　木下正明

◆議　　案　　議案第３９号　平成３１年度国富町立小・中学校入学式について

　　　　　　　議案第４０号　平成３０年度国富町小学校補助職員の委嘱について

議案第４１号　平成３０年度準要保護児童生徒の追加認定について

◆教育長報告要旨（１１月１日～１１月３０日行事実績）

①教育総務課

　　　○１１月１２日（月）学校支援訪問

　　　　　木下委員にも参加していただいて、八代小学校の学校支援訪問が行われました。教育事務所から３名来ていただいて、みんながしっかり理解して、教えて考えさせる授業に取り組んでいました。

○１１月１３日（火）就学時健康診断

　　　　　これまで各学校で協力をいただいて、小学校ごとに行っていましたが、負担が大きいということから、今年は合同になりました。小学校に入学予定の新１年生の対象者は１３６名です。

　　　○１１月２０日（火）中学生講演会

　　　　　腰塚勇人さんを講師に迎え、中学生と教職員約５００名が対象で、アリーナくにとみで行われました。腰塚さんは熱血体育教師だった頃に、スキー事故で全身麻痺となり、命の危険さえあった方でした。リハビリにより復活した経験をお持ちになる方だからこそ話せる命の授業でした。

②社会教育課

　　　○１１月１１日（日）第２６回区対抗ソフトバレーボール大会

　　　　　アリーナくにとみで１８チームが参加して開催されました。男子１部が６チーム、２部が４チーム、女子１部が３チーム、２部が５チームでした。

　　　○１１月２１日（火）婦団連講演会

　　　　　野村循環器内科の野村勝政院長先生に「心もカラダも「キレイ」になる秘訣」というテーマで講演をしていただきました。婦団連の方など２３０名が参加され、非常によい講演だったと聞いております。

②学校給食共同調理場

　　　○１１月１３日（火）本庄中学校２年生職場体験学習

　　　　　男子１名・女子１名の生徒２名が３日間、調理場で体験学習を行いました。これ以外にも、中学生が直接現場に行っていろんな職業の体験をしました。

教育委員　　２１日（水）に行われました、家庭教育サポートプログラムとはどんな内容だったのでしょうか。

松岡課長　　県主催の事業ですが、サポートプログラムの講師に三名保育園の園長先生がなられまして、講演などを行い、次のトレーナーを育成する研修会が行われました。

教育長　　　八代小の学校支援訪問の感想がありましたら木下委員お願いします。

教育委員　　学校訪問をさせていただきましたが、一クラスあたりの人数も少ない学校で、女性の先生方を中心にまとまっているなという感じを受けました。その中で、私の勘違いかもしれませんが、１年生の子供だったと思いますが、授業が始まるちょっと前に、廊下で水を出した際、廊下も体もびしょ濡れになってしまったという状況がありました。教頭先生と校長先生が最初にその対応をされました。その時に担任の先生は教室におられて、授業の準備をしていたのだろうと思いますが、濡れた子供の対応は確か補助職員の先生がされていました。やはりそういう時にこそ臨機応変に対応する判断力を持たなければいけないのではないかと感じました。私は新任式の挨拶で、子供を真正面からだけで見るな。横から見たり、後ろから見たり、そこから気付くような捉え方・感覚を持った先生になってくださいと言っています。また先生方は、一生懸命に授業をされて、レベルが高いと感じました。加えて、児童一人ひとりの実態を把握されているところを見ると、教育対策監が来られた効果かなと、感心して見ていました。児童一人ひとりのレベルを把握するような教育のあり方はできていると思いますが、休み時間にしても、授業にしても、子供たちをよく観察する気持ち、心といいますか、そういうところが欲しいかなという気はしました。以上です。

教育長　　　先生は、担任として、子どもの前に立つ教師として、臨機応変の判断力とか、子供を真正面から見るだけではなくという非常に大事な話だと思いました。これからいろんな場面で指導徹底していこうと思います。

◆議事要旨

議案第第３９号平成３１年度国富町立小・中学校入学式について

国富町立小・中学校入学式の期日を国富町立学校管理運営規則（平成１４年国富町教育委員会規則第８号）第１４条第１項の規定に基づき、小学校入学式を平成３１年４月１０日水曜日、中学校入学式を平成３１年４月８日月曜日に定めるものです。国富町立学校管理運営規則１４条で入学式は４月１０日までに行うものとし、期日は教育委員会が定めるものとなっております。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【原案のとおり承認】

議案第４０号平成３０年度国富町小学校補助職員の委嘱について

木脇小学校の補助職員を１名委嘱するものです。１１月に外国からの児童の転入があり、日本語教育や学習指導等の通訳を行う補助職員ということでの委嘱となります。

日本語指導の教師については県の方で配置することになっているのですが、年度の途中であり、県で配置するのが無理ということでしたので、町の補助職員として配置したいということです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【原案のとおり承認】

議案第４１号平成３０年度準要保護児童生徒の追加認定について

就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律に基づき１２月１日から認定するものです。

【議案資料を基に説明、審議】　　　　　　　　　【審議結果のとおり決定】

◆その他

◇行事予定について　各課行事予定表に基づき説明

◇平成３０年度国富町立小・中学校卒業式について

国富町立学校管理運営規則第１４条第２項により、卒業式は、小学校は３月２３日以降に、中学校は３月１６日以降に行うこととなっており、学校長が教育委員会の意見を聞いて定めます。本年度は、小学校卒業式につきましては平成３１年３月２５日金曜日、中学校卒業式につきましては、平成３１年３月１６日土曜日にします。

◇学校・家庭・地域社会の役割等について

１０月に出席した久世コーチの講演会で、久世コーチは保護者にはっきりと言える方だったというこうことを聞き、学校が保護者にはっきりと言いにくくなったのはいつ頃からなのか。いろんな保護者がいる中で、ここはという時ははっきりと言える雰囲気になるには、どうすればいいのか。と思いました。（中略）

学校の役割・家庭の役割・地域の役割という部分で、親がすべきことを先生に頼むという部分は、増えてきていると思います。ずいぶん前からそういうふうになってきているのかもしれません。

　（中略）

幼稚園・保育所の時代に保護者を一同に集めて、小学校入学前には入学前の心構え等を指導するような講演の場を作っていかないと、子供たちも親も幼稚園・保育所時代に考え方が固まってしまっているような気がします。なにかそういう方法はとれないものでしょうか。

国富町は、大きな講演会が三つあります。子どもを対象にした中学生講演会、教職員を対象にした教育講演会、そして子育て講演会です。これはどうやって我が子を育てるかといった話がほとんどなので、学校の役割・家庭の役割等の話はありません。我が子をどう育てるかということより、家庭は何をするところで、学校は何をするところかという役割のことが一番根本であると思います。（中略）

９月の市町村教委の季刊誌に、長崎の南島原市の『地域人材の育成ということで、「地域で支える体制作りのための核となる人材として、育児不安、親子の学習支援、結婚まで幅広く支援できる家庭教育支援コアサポーターの資質向上と新米ママの育児解消などを目的とした、初めての親・学び支援プログラムを実施しています。また、子どもの発達段階に応じた支援プログラムを展開・進行するためのファシリテーターを育成し、親同士の話し合いの場を作り、子育てに必要な知識やスキルを学ぶ支援を行い、家庭の教育力向上に努めています。寄り添ったサポートを可能にするために、幼保と連携し、大学と専門機関と協力の下、本市独自の保護者支援士の要請を行っています。」』という記事がありました。これは宮崎県がやろうとしているものと似ているのではないかと捉えたところです。幼保連携から保護者支援士へ繋がっていくのかなと思いました。連携が幼児の段階からでき、その中で学校でのあり方を伝えていければ良いのかと。学校へ上がったら学校に協力し、学校と保護者と子どもの三者でやるということを入学以前に親に伝えることができれば、少しは学校が保護者にはっきり言えるようになるのではないかという気がします。（中略）

今の風潮として、保護者等が学校に対してなんでも言えば叶うと、思いどおりにならないと学校のせいにするという風潮がみられます。親のモラルも下がっているということだと思います。子どもが悪いわけではなく育てる親に問題があるという気もしています。また、社会的に見ても、マスコミなど、事件等があれば学校をたたき、偏った報道も見受けられます。学校のせいではなくて、社会が襟を正すようにならなければと感じています。

また、学力が高いといわれる秋田県に視察にいっていますが、担当者からは特段これということをやっているわけではなく、他県と比べて特徴的なところは、家庭がものすごく学校に対して協力的だということを言われたようです。

国富町に限らず、保護者が変わってきているという状況はどこも同じです。ただ国富町は宮崎市辺りからすると、保護者が学校に対してまだ協力的な部分というのが残っているという気はします。だから、この時期に何らかの手を打つことが必要なのかなと思います。親の教育が必要だということは、県も考えているようで、県の生涯学習課もすでに、親に関しての教育、特に若い親の世代に力を入れて、いろんな取組みをスタートしていますので、今後の効果を期待しています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（閉会午後３時１７分）